

東高野街道 【茄子作地区】

釈尊寺

創建時期は不明ですが、縁起によると平安時代中期には七堂伽藍、十二の坊舎を備えるほど隆盛をほこり、寺号を「靈鷲山釈尊寺」に改めたとされています。その後、兵火にあい、次第に衰退しました。本尊は木造釈迦如来立像で、鎌倉時代初期の作品と考えられており、京都嵯峨にある清涼寺の本尊釈迦如来立像を模して造られた清涼寺式の秀作です。昭和45年、大阪府の有形文化財に指定されました。



本誓寺

寺の記録によると、応仁2年(1468)順徹大徳の開基とされています。本堂は、文政2年(1819)に再建された当時の様子をよく伝えており、本尊の阿彌陀仏坐像は鎌倉時代の作とされています。また半鐘は、枚方の田中家が1685年に鑄造したもので、「貞享二年十一月十五日 藤原朝臣家正作」の銘があります。

茄子作遺跡

茄子作2丁目から茄子作4丁目にかけて、弥生時代～古墳時代の集落跡が広がっていました。この集落跡からは朝鮮半島とのかかわりを示す初期須恵器や韓式系土器が多く出土しています。2丁目の公園には弥生時代後期の一辺12メートルを測る方形周溝墓が、4丁目の保存地には平面円形から方形に建て替えられた弥生時代後期の竪穴住居(写真)が埋め戻されて保存されています。



本尊掛松

元亨元年(1321)、摂津深江(大阪市)にいた法明上人が石清水八幡神の霊夢をうけ、男山へ向う途中、この地で八幡宮の使者に出会い、十一尊天得如来の画像を授かりました。上人は有難さのあまり、これを道ばたにあった松にかけ、その前で称名念仏を唱えて踊り出しました。これが融通念仏宗の念仏踊りの起源とされ、「本尊掛松」の名はこの画像を掛けたことに由来します。



道標

「すぐ高野大坂道」と記された道標には、「大峰山 右宇治 左京八幡道」とあり、「安政二乙卯 三月建立 世話人 光明講中」「願主 私家村 浅右衛門」と1855年に建てた人の名前も刻まれています。またすぐ隣には、明治37年1月に大阪府が建立した道標があります。



私部西5

第二京阪道路建設に伴う上の山遺跡の発掘調査では、平安時代～中世の道路の側溝跡と数条の轍の痕跡が検出されました。また、路面を補修した跡も見つかっています。